



本願清水イトヨの里

10年のあゆみ

ごあいさつ

大野市長 岡田 高大



本願清水イトヨの里が、平成13年7月14日に開館して以来、今年で10周年という節目を迎えることができました。お陰様で、この間、市内外から12万人を超える方々にご来館いただき、幅広い年齢の方々に親しんでいただいております。これもひとえに地元糸魚町をはじめ関係各位のご支援と、市民の皆様のご愛顧のたまものであると、心から感謝申し上げます。

本願清水イトヨの里は、天然記念物「本願清水イトヨ生息地」を地域の貴重な財産として保護し、生涯学習や環境学習の場として活用することにより、その保護の一層の充実を図ることを目的として設立いたしました。イトヨの生育する環境を守ること、大野市の地下水を守ることでもあり、イトヨを通して、大野市の水環境の保全や水文化について学ぶことができる学習施設を目指してまいりました。実際にイトヨの生態を観察し、ふれあうことで、多くの方々に水環境の保全について考えていただく機会をご提供できたのではないかと思います。

平成23年10月23日（日）に、－本願清水イトヨの里開館10周年記念－湧くわく水サミット in 越前おおの「湧水文化の再生～ふるさとを知り、ふるさとを創る～」を学びの里「めいりん」を会場として開催いたします。大野市の良好な「水」に着目し、水を活かしたまちづくりや水環境の保全と活用などについて、共通の課題を有する自治体と市民・ボランティア団体がともに考えることにより、「湧水文化」の再生を図ることを考えてゆく機会となりますように祈念いたします。

今後とも本願清水イトヨの里が多くの方々に親しまれますよう、工夫を凝らすとともに、次代を担う子どもたちが、イトヨや自然に対する理解を深め、自然との関わりや生命の大切さを学ぶ機会を提供してまいる所存であります。

おわりに、10年の永きにわたり、本願清水イトヨの里を支えて下さいました地元糸魚町の皆様をはじめとする関係各位、並びに市民の皆様に重ねてお礼を申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げ、挨拶いたします。

平成23年10月

もくじ

ごあいさつ

大野市長 岡田高大	1
-----------------	---

もくじ

2

“はりしん”とともに「本願清水イトヨの里」10周年 本願清水イトヨの里館長 森 誠一	3
---	---

I 10年のあゆみ

開館10周年を迎えて	4
本願清水について	5・6
平成13年度～平成23年度	7～17

II イトヨとともに

教育普及	18・19
企画展・特別展	20
シンポジウム	21～23
地域とともに	24

III イトヨ保護活動

雑魚駆除・冬期間の鳥害防止対策	25
ボランティア活動	26
他団体との交流	27・28

IV 未来へ

より楽しく、より学ぶ	29・30
------------------	-------

V 資料編

館内のご案内	31・32
整備概要	33
イトヨと自然環境にやさしい施設	34
入館者の状況	35
行政・環境団体視察など	36
利用案内	37
設置条例・管理運営規則	38・39
管理運営	40

“はりしん”とともに「本願清水イトヨの里」10周年

イトヨ*Gasterosteus aculeatus*は、北アメリカ、ヨーロッパ、日本の北中部を含む極東アジアなど北半球に広く分布する冷水性のトゲウオ科魚類である。一生を淡水域で送る淡水型と、淡水で繁殖し海で成長する遡河型がいる。淡水型は、我が国においては湧水の豊かな地域を中心に局所的に分布し、大野市は世界的南限に生息するイトヨ淡水型の生息地である。また、イトヨは繁殖期にオスが水草などを利用して水底に巣を作り、繁殖行動に独特の習性をもつことで知られて、世界中で先端的な研究がされて、ノーベル賞学者の研究題材ともなっている。

北方系の魚類であるイトヨの生息には、夏期でも水温十数度を越えない湧水域が必須である。かつては、大野市内のあちこちに生息があったが、近年の人間活動の影響による湧水地の埋め立てや湧水の枯渇により絶滅の危機にあり、実際にこの数十年の間に消滅した集団も複数あることが確認されている。

これまで市内のいくつもの湧水地で生きてきたイトヨは、地域の人びとにとってはとるに足らない、ほとんど日常の生業とはおよそ無縁の「生き物」であった違いないが、まちの成立要因として湧水の恩恵が主要な働きを果たしてきたことは紛れもない。このように考えると、人はイトヨと湧水を通じて、密接な関わりがあるというべきであろう。この地域の湧水環境のなかでイトヨが何十万年にもわたって生息し、その後、随分遅れて人間もまた湧水を利用して町をつくってきたのである。つまり、イトヨの保全は単に一種の魚の保全をすることではなく、地域の水環境を守ることに他ならず、まちづくりの根幹に位置するものといえる。

こうした状況の中、大野市では1970年代から、人間活動の影響によりイトヨが絶滅および激減した生息場所に湧水を復活させ、美しい湧き水のシンボルとしてイトヨを保全する動きが、公的あるいは私的な活動としてあった。その一つの帰結点であり出発点となったのが、「本願清水イトヨの里」の設立（2001年）であるといえる。同施設は天然記念物指定地の本願清水に接していることが一つの特徴で、天然のイトヨが観察窓越しに観察できるようになっている。市内・市外問わず学校関係を含め多くの来訪者をいただき、同時に市民からなる運営委員会を設けて、イトヨのみならず水環境の保全活動の場として大いに活用されている。

今後も、当館が、大野市という郷土特有の湧水と、それに依拠する人々の生活とイトヨの水環境を支える活動、すなわち湧水文化の育成に一助する役割をいっそう担っていく所存である。さらに言えば、この文化の有り様は、全国のみならず世界へと発信できる可能性をもっていると思っている。

本願清水イトヨの里館長 森 誠一

I 10年のあゆみ

開館10周年を迎えて

本願清水イトヨの里は、文化庁の天然記念物整備活用事業により、平成13年7月14日、世界でも珍しい陸封型イトヨの保護学習施設として大野市糸魚町に開館しました。

当施設は、大野市に生息する陸封型イトヨを地域固有の貴重な財産と考え、生涯学習や環境教育の場、さらには地域おこしの拠点として捉え、その一層の保護を図ることを目的に整備されました。

開館から今日までの10年間で、12万人を超える方々にご来館いただきました。ご来館いただいた大勢の方々に、イトヨや大野市の水環境に触れていただき、世代を超えて、癒しの場としても親しまれてきました。

また、本願清水イトヨの里はイトヨと環境にやさしい施設という特徴をもち、イトヨの保護や大野市の水環境の保全への保護啓発にも役割を果たしてきました。

大野市の豊かな自然の中、また、歴史ある本願清水イトヨ生息地の脇に設立されたイトヨの里で、開館10周年を迎えるにあたり、これまでの出来事を記録し、さらに未来に向かってイトヨとともに歩み続けます。



本願清水から越前大野城を望む

本願清水について

本願清水は、越前大野城を築いた金森長近公が約430年前、この地を掘り下げ町用水の水源として整備したのがはじまりと言われています。長近公は、現在の市街地の起源となっている京都に似た碁盤目状（短冊形）の城下町を造りましたが、領民を住まわせるために飲料水と生活水の確保を必要としました。当時の糸魚町付近は、木本扇状地の伏流した地下水があらこちらで顔を出していたと伝えられています。名前の由来は、昔この近くに本願寺派の寺があったからとか、本願寺派の門徒を使って掘り広げられたからとも伝えられています。

“名水のまち大野”を作りあげた原点が、ここにあります。



夏の本願清水（昭和34年）
（さいたま市在住 門前秀幸氏 写真提供）



枯渇した本願清水（昭和53年）

本願清水は、淡水型（陸封型）イトヨ生息地の南限として、昭和9年5月1日に国の天然記念物に指定されました。本願清水には現在、市内に約10,000匹いるイトヨの内、約6,000匹が生息しています。イトヨは体にトゲを持つ体長約5cmの小さな魚で、きれいな冷たい湧き水でしか生息できないため、名水のまち「越前大野」のシンボルとして、昔から「ハリシン」という名前で親しまれてきました。

昭和40年代以降、本願清水は湧水量が著しく減少し、地元保存会や市では、池の改修や青藻除去などの対策を講じましたが、イトヨ生息地として水質などの環境条件を十分に保全できない状態が続きました。

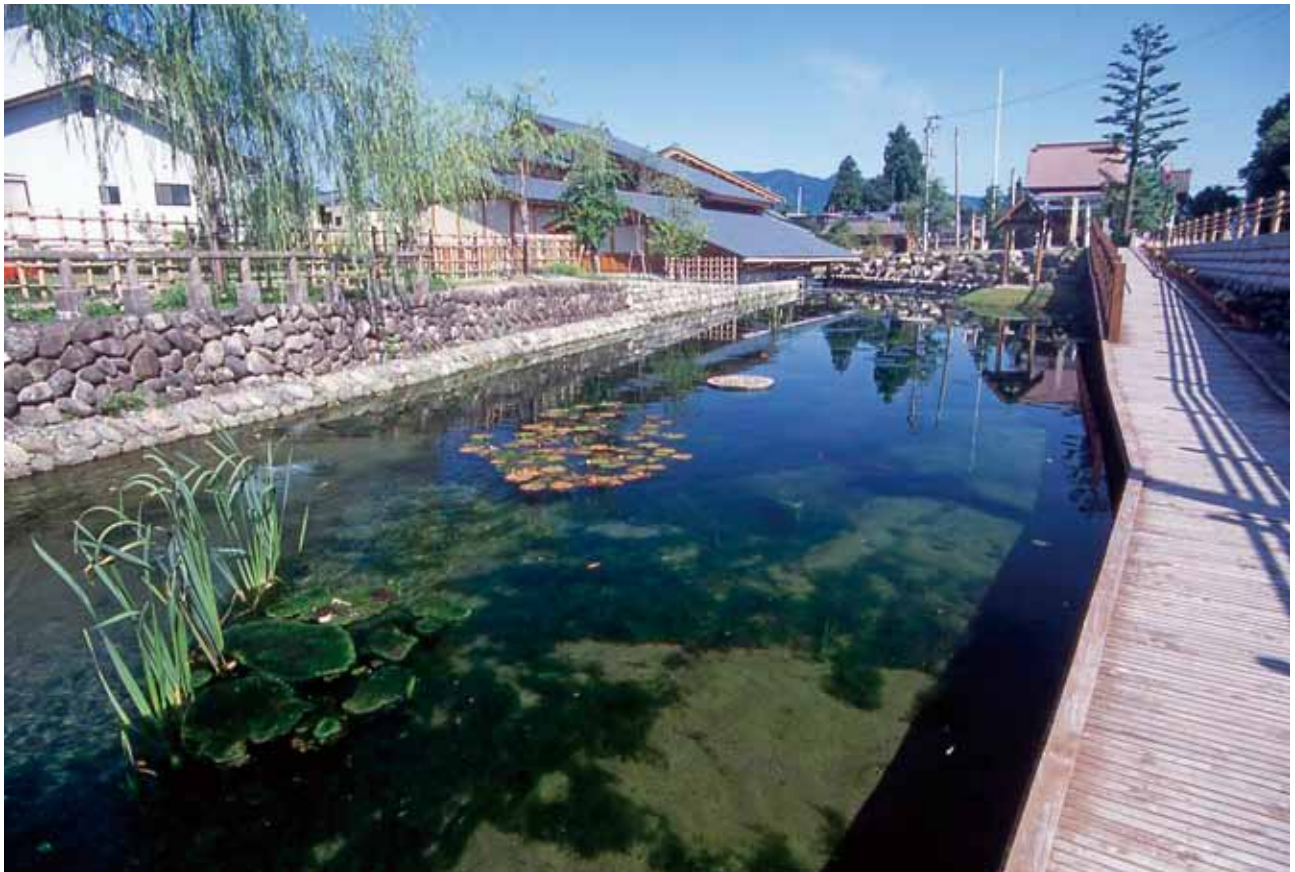
このため、平成10年度から3ヵ年かけて、文化庁と県の補助を受け、天然記念物整備活用事業により、抜本的な改修を行いました。この改修事業では、生息池の改修と併せて水環境・自然環境教育や生涯学習推進の拠点として、学習・研究施設「本願清水イトヨの里」も建設し、現在に至っています。



改修工事中（平成12年）



整備後の生息池（平成13年）



昭和 9年 5月 1日	国の天然記念物に指定(旧文部省)
平成 8年 3月	水の郷百選(本願清水を含む大野市)(旧国土庁)
平成 13年 12月	日本の重要湿地500(環境省)
平成 15年度	景観特選おおの(大野市)
平成 18年 1月 31日	ふくいのおいしい水(福井県)
平成 20年 6月 25日	平成の名水百選(環境省)

イトヨの保護・学習施設「本願清水イトヨの里」

天然記念物に指定されている動植物は、これまでは、その貴重さゆえに公開や活用に慎重になりすぎる傾向がありました。

「本願清水イトヨ生息地」でも、イトヨを絶滅させないための生息環境の維持を目的としたハード面での整備が実施されてきましたが、ソフト面での総合的な保護活動は必ずしも十分ではありませんでした。

当施設は、事業の主旨に則り、イトヨを地域固有の貴重な財産と考え、生涯学習や環境教育の場、さらには地域起こしの拠点として捉え、「郷土の宝であるイトヨと共に生きる」ことを日常生活の意識の中に育てて、保護育成を行うことを目的に整備されました。

当施設は大きく分けて、学習施設と、野外園路観察池及び生息池からなる観察エリアからなり、学習施設は、切妻造りの木造平屋建てで、木の力強さと暖かさを感じる建物になっています。

平成13年度 (2001) 来館者数: 15,002人

■本願清水イトヨの里 落成式

平成13年7月14日、3年の工期を経て本願清水イトヨの里が大野市糸魚町において落成式を迎えました。

大野市の地下水のバロメーターであるイトヨの保護、そして、市民が生涯学習や環境教育の場として活用できる学習施設として、大勢の市民の期待を受けての出発でした。(7月14日)



■平成13年度 第1・2・3回イトヨ講座

「水の国・大野のイトヨ」をテーマに、市内小学生・中学生・一般を対象に開催、森 誠一館長が講師を務めました。

(11月29日・1月11日・2月23日)



■平成13年度 職員の写真展

交流室が展示室となった初めての企画展です。

イトヨの生態や来館者のスナップ写真などを展示しました。

(2月23日～3月17日)



■第3回 イトヨシンポジウム

「まちづくり発信：イトヨの里から～市民によるイトヨを通じた水環境の保全～」をテーマに多田記念大野有終会館にて開催しました。

豊田市矢作川研究所 山本俊哉氏の基調講演やパネルディスカッションが行われました。

(3月17日)



平成14年度 (2002) 来館者数: 14,324人

■七夕お楽しみ会と稚魚放流会

年間パスポートを購入した子供達を対象に、お楽しみ会を開催しました。

イトヨの里の研究室で生まれた稚魚50匹を観察池に放流したあと、七夕飾りを作り、楽しいひとときを過ごしました。(7月7日)



■平成14年度 第1回イトヨ講座

「大野のイトヨを知る」というテーマで開催された講座では、講師の森 誠一館長が、「まず、イトヨという相手を知ること」と話し、参加者らは講義を聴くとともに、実際に観察池と生息池での営巣状況などイトヨを見ながら学びました。

(7月21日)



■イトヨ音頭発表会

福井市在住の吉田純治さんがイトヨ音頭を手がけられ、大野市に寄贈されました。糸魚町の夏祭りでそのお披露目会を開催し、市内の金森澄子さんの振付で、糸魚町のイトヨの会の皆さんによる踊りが披露されました。

(8月4日)



■マイホームタウン活動

総合的な学習でイトヨの里を利用している有終南小学校3・4年生が、イトヨの里で「マイホームタウン活動」と銘打ち、奉仕作業を行いました。草取りや生息池、観察池の藻取りを行い、イトヨを守ること、地域の役に立つことなどを体験しました。

(9月18日)



■平成14年度 第2回イトヨ講座

福井県ナチュラリストリーダーで日本自然保護協会員の石本昭司さんを講師に、イトヨとかかわりの深い水生植物の生態と、水辺周辺の自然保護の在り方についての学習をしました。

(2月2日)



■第4回 イトヨシンポジウム

「イトヨの里で学ぶ環境保全とまちづくり」をテーマにイトヨの里レクチャールームにて開催しました。独立行政法人・土木研究所（岐阜県各務原市）自然共生研究センター長の萱場祐一さんが「多自然型川づくりとは何か」と題して特別講演されました。

（3月17日）



平成15年度（2003）来館者数：11,877人

■保育園児による七夕かざりのプレゼントと稚魚放流会

イトヨの里の近くにある開成保育園の園児たちが、日ごろの園外活動でイトヨの里を利用しているお礼にと、毎年七夕飾りをプレゼントして下さいます。「いとよさん、はやくおおきくなってね。」などの願いがこめられた短冊がゆれる中、研究室でふ化したイトヨの稚魚を放流してくれました。（6月20日）



■森 誠一館長 生態学琵琶湖賞受賞

第12回生態学琵琶湖賞に本願清水イトヨの里 森 誠一館長（岐阜経済大学教授）の受賞が決定し、その表彰式が、大津市の琵琶湖ホテルにて開催されました。授賞式には秋篠宮殿下夫妻もご臨席されました。

（7月1日）



■第1回 イトヨ講座

「奥越の自然を水環境から見る…ふるさと学習にむけて」をテーマに、奥越ブロック社会教育委員・一般を対象に開催、森 誠一館長が講師を務めました。

（12月8日）



■イトヨの里で防火訓練

文化財防火デーにちなみ、イトヨの里で、大野地区消防本部と市文化財保護審議会委員、市職員のほか、近くの開成保育園児と糸魚町内の住民約80人が参加して、防火訓練が行われました。
(1月16日)



■第5回 イトヨシンポジウム

「自然と人との共生～地域資源を活用し、地域を元気にする学校と地域住民の役割～」をテーマに多田記念大野有終会館にて開催しました。総合地球環境学研究所 秋道智彌教授が、「地域の宝物を探そう ビオストーリーの視点」と題して基調講演をされました。

また、有終南小学校の総合的な学習の発表をはじめ、様々な団体の取り組みが発表されました。
(2月28日)



平成16年度 (2004) 来館者数: 11,153人



■トゲウオサミット開催

第2回 トゲウオ全国サミット in Ono ～トゲウオから日本の水環境を考える～を秋篠宮殿下ご臨席のもと、大野市文化会館において開催しました。

イトヨの里では、約300人の大野市民や、保育園児によるお出迎えの声、歓迎披露された糸魚町婦人会によるイトヨ音頭に終始笑顔で応えられました。

(9月25日)



「第2回トゲウオ全国サミットin Ono」には、トゲウオの生息環境の保全を通じたまちづくりに取り組んでいる全国の方々が将来の水循環のあり方について意見交換をしました。

総合地球環境学研究所 秋道智彌教授が、「トゲウオと生き物文化～水と魚と地域をつなぐ～」と題し基調講演を、文化庁記念物課 花井正光主任文化財調査官が「天然記念物の保存と活用から大野の環境の世紀について考える」と題し特別講演をされました。

また、地元代表の活動発表では、開成中学校理科部が研究発表を、総合的な学習でイトヨについて学んでいる有終南小学校の3年生が、日ごろの学習の成果を劇にして披露しました。

(9月25日)

■子ども環境塾「イトヨ塾」開催

「手作り工房もっこの会」の安岡三郎さんを講師に、イトヨの木工模型作りにチャレンジしました。

(7月4日)



平成17年度 (2005) 来館者数: 10,610人

■お土産品の登場

「大野イトヨの会」からの委託を受け、「イトヨのシンちゃん」のマスコットの販売を開始、お土産品として好評を得ました。

さらに箸やファイルとキャラクターグッズが増え、市内外のお客様に喜ばれています。



■平成17年度企画展「日本のトゲウオ展」

日本に生息しているトゲウオの仲間たちを標本で展示しました。ハリヨやトミヨなど、貴重なトゲウオを生息地別に見ることができました。

(9月21日～12月18日)



■平成17年度 イトヨフォーラム「奥越の自然を考える～ふるさと大野の自然を知る～」

フォーラムに先立ち、青葉の笛保存顕彰会によるふれあいコンサート「邦楽のしらべ」を開催、素晴らしい和泉地区の伝統と歴史に触れることができました。約80名の参加者は、旧和泉村との合併で誕生した新たなふるさと大野の自然について、更にはイトヨの保護や自然環境の保全の重要性について再認識された様子でした。(2月26日)



■本願清水の湧水復活

記録的な豪雪に見舞われたこの年、本願清水では、大雪の雪解け水で、3月ごろから豊富な湧水が復活し、5月ごろまで続きました。この年以來、毎年湧水が見られるようになりました。



■深刻な鳥害発生

平成18年豪雪の影響で、餌を求めて本願清水にサギなどが飛来し、イトヨが捕食され、生息数が約1,000匹まで激減しました。天敵である雑魚も同時に捕食されたため、イトヨの生存率が高まり、約1年でほぼ生息数は回復しましたが、今後のためにさまざまな対策を立てる必要性が出てきました。



平成18年度 (2006) 来館者数: 10,434人

■イトヨの里開館5周年記念特別企画展

「世界のトゲウオ展」・「ふくいのおいしい水展」

国内には生息していないスピナキアやクラエア、海外産のイトヨなどを標本展示しました。

また、ふくいのおいしい水に認定された35ヶ所の湧水地の写真などを展示しました。

(7月14日～8月31日)



■イトヨの里開館5周年記念

森 誠一イトヨの里館長 講演会

「ふたつの保全：生物多様性と生き物の多様性」をテーマに学びの里「めいりん」にて開催しました。「自然のざわめき」「郷土力」について講演されました。(3月9日)



平成19年度（2007）来館者数：11,077人

■「ハリヨの夏」上映会に協力

大野市出身の詩人、正津 勉さんの娘さんである中村真夕さんの初監督作品「ハリヨの夏」の上映と親子対談が学びの里「めいりん」において開催されました。制作には、イトヨの里も協力しました。

主催：「ハリヨの夏」上映実行委員会
(4月27日)



■平成19年度 イトヨの里 夏休み企画展

本願清水の生物多様性について考えてもらおうと「本願清水の仲間たち～本当は敵？味方？～」展を開催しました。ザリガニ、カメ、サギの剥製など、本願清水に生息するイトヨ以外の生き物を展示しました。

(7月21日～9月2日)



■湧水保全フォーラム全国大会 in 越前おおの～残そう未来の子どもたちへ～開催。

主催：大野市・大野市名水を活かした水先案内実行委員会

秋篠宮殿下ご臨席のもと、学びの里「めいりん」にて開催されました。

10月29日に大野市に入られました秋篠宮殿下におかれましては、平成16年に開催された第2回トゲウオ全国サミット in Ono ご臨席以来、2度目のご来市となりました。

翌30日に開催されたフォーラムは、～残そう未来の子どもたちへ～をテーマに、湧水を未来の子どもたちに残していくために、関係者と市民が一堂に会して、全国の湧水保全活動を学び、その取り組みを全国に情報発信するとともに、われわれが、今、何を考え、何をすべきかを広く啓発していくことを目的として開催されました。

(財) リバーフロント整備センター理事長 竹村 公太郎氏が「水辺と子どもの心」と題し基調講演を、また地元代表の湧水保全の取り組みとして、有終西小学校の4年生が「未来へ残そう ふるさと大野 名水のまち」と題してステージ発表を行いました。

(10月30日)



平成20年度（2008）来館者数：11,317人

■「平成の名水百選」選定

本願清水が、環境省「平成の名水百選」に選定されました。地域の生活に溶け込んでいる清澄な水や水環境の中で、地元住民をはじめ、たくさんの方々の活発な保全活動の積み重ねが、選定された大きな要因になったと考えられます。

（6月4日）



■イトヨの里 夏の企画展「懐かしの本願清水～思い出のおすそわけ～」

湧水が豊富だった懐かしい時代の本願清水を写真や民具などで紹介しました。

また、初めての試みである「ナイトミュージアム」を開催しました。

（8月1日～9月15日）



■常陸宮両殿下がご来館

「第59回 中部日本スキー大会」ご出席のため、両殿下がご来市されました。

イトヨの里にもご来館され、イトヨを注意深くご覧になりました。池にカワセミが飛び込むハプニングもあり、豊かな生態系にお喜びの様子でした。（1月28日）



■押切監督と森館長の対談＆「はりんこ愛あるゆえに」上映会

学びの里「めいりん」において開催、映画に出演していた森 勇太くんも飛び入りで参加してくれました。

（3月14日）



■防鳥対策工事が完了

国や県の国宝重要文化財等保存整備費補助金などを受けて、生息池の防鳥対策工事が行われました。生息池にサギなどの鳥が侵入できないようにワイヤーとネットで覆うことができ、被害を食い止めることができるようになりました。



平成21年度 (2009) 来館者数: 12,568人

■平成21年度 夏の企画展 -感性のコラボレーション-

「フォトギャラリー ～ファインダーから見る湧水のみなもと平家平」
(7月24日～8月30日)

「水・森・空・川・山 ～越前大野感性はがき展作品集から～」
(7月24日～9月23日)

写真家 中林義晴氏の講演会も開催しました。(8月13日)



■イトヨの里「もうひとつの企画展」

遠足などでイトヨの里にご来館いただいた学校や保育園などの写真を展示しました。

(7月24日～9月23日)



■いとよ音灯会～エコで遊ぼう～

大野の水環境や自然のシンボルでもある“イトヨ”の棲む本願清水イトヨの里に、市内青年グループが実行委員会を立ち上げて集結、光と音と癒しの空間を創出しました。「大切なもの」をテーマに集められたメッセージキャンドル5104 (イトヨ) 個の灯りのもと、深津純子さんのフルートの音色が、しっとりと流れました。(9月20日)



■「イトヨを通して環境を考える」森 誠一イトヨの里館長 講演会

(社)大野青年会議所との共催で、「越前大野の生物多様性を水文化で守る～地域の宝物“イトヨ”を活かした環境と人づくり～」をテーマにイトヨの里レクチャールームで開催しました。(2月18日)



平成22年度 (2010) 来館者数: 11,886人

■平成22年度 イトヨの里 22 夏の企画展

「湧水に生きるイトヨの仲間たち～ハリヨ・トミヨ・遡河型イトヨの生体展示～」

大野に生息するイトヨの存在意義と保全していく価値を、『生物多様性の保全』というコンセプトで考えてもらおうと企画しました。また、モンスターハリヨ（滋賀県米原市で発見されたハリヨとイトヨの交雑種）の生体展示も行いました。

(8月1日～9月4日)



■いとよ音灯会～その2、未来への灯り～

昨年に引き続き、平成22年度も市内の若者グループたちによる「いとよ音灯会」が開催されました。水辺を照らす「未来への思い」のメッセージが描かれたキャンドルの灯りのもと、ジャズシンガーnoon (ヌーン) さんのやさしい歌声が流れ、幻想的な夜となりました。

(9月4日)



■藩主隠居所で特別企画展開催

越前大野城築城430年祭に合わせて、イトヨの里とは別会場である“藩主隠居所”において高槻市在住の写真家 中林義晴氏の撮影した自然との共存をテーマにしたフォトギャラリー「湧水のみえる町」を開催しました。会場には、本願清水イトヨの里所蔵の古き時代の清水の写真も飾られました。市内外から4,511人の来場者がありました。(10月1日～31日)



■イトヨの里開館10周年記念プレ イベント

ー公開学習会ー

「淡水魚・湧水保全～研究活動報告と今後の課題～」をテーマにイトヨの里レクチャールームにて開催しました。基調講演には、福井県立大学海洋生物資源学部講師の小北智之さんが、「日本のイトヨ類の多様性を探る」と題して講演。市内外・県外を含む70人が参加し、湧水を含む生物多様性の問題や環境保全のあり方について考えました。(3月5日)



■車道案内標識設置

かねてから、遠方のお客様からイトヨの里の場所が分りにくいとの声が寄せられていました。そういった声にお応えして、こぶし通りなどに本願清水イトヨの里への車道案内標識が設置されました。



平成23年度 (2011)

■本願清水にカルガモ

豊かな生態系を証明するかのように、この春、本願清水ではカルガモの姿が見られるようになりました。4羽のヒナが誕生し、巣立っていきました。



Ⅱ イトヨとともに

教育普及

本願清水イトヨの里では、生きたイトヨとの触れ合いを通じて、その保護や自然環境保全の大切さについて保護啓発を推進する教育活動を行っています。

学校との連携

総合的な学習

本願清水イトヨの里では、平成13年の開館当初から市内の小中学校における総合的な学習の支援を行ってきました。年間を通して、多くの学校からたくさん子どもたちが訪れています。イトヨの観察だけでなく、地下水の大切さや大野市の水文化について、イトヨの里から学ぼうとする学校も増えています。



部活動の支援

市内中学校の理科部や市内高校のサイエンスサークルと協力して、市内のイトヨ生息地の調査を行っています。平成21年には約40年ぶりに、市内の河川で理科部生徒がイトヨを捕獲したとの情報も寄せられました。生徒たちの取り組みは、市内生息地の状況や、大野市の自然環境の把握につながる大切な活動です。



■ 職場体験

市内中学生の職場体験の場として、イトヨの里を希望する生徒を受け入れています。来館者への対応や施設の管理など、さまざまな作業を体験してもらい、働くことの大変さや楽しさを感じてもらっています。



■ 生涯学習

高齢者学級や公民館など、生涯学習を行う団体から、イトヨや大野市の水文化について学びたいという声が年々高まってきています。大野市シルバー人材センター主催で毎年夏休みに小学生を対象として開催される「ふるさとクラブ」では、学習の場のひとつとして、イトヨの里をご利用いただいています。



■ 大学生の受け入れ

本願清水に生息しているイトヨは、その学術的な価値が高く、多くの研究者の注目を集めています。平成16・17年の2年間には、福井県立大学院生が、本願清水のイトヨの生態を研究しました。大野市に在住しながら本願清水のイトヨを調査し続け、研究論文を書き上げました。森 誠一館長をはじめ、イトヨの里も全面的にサポートしました。

また、大野市では、大学でまちづくりなどについて学ぶ学生の現地実習生を受け入れています。

近年、全国各地の大学から実習のひとつとして、イトヨと水文化について学んでいただくことが多くなっています。



企画展・特別展

イトヨの里では、夏休み期間などに企画展を開催しています。

常設展示とは違った雰囲気の中で、皆さまに楽しみながらイトヨに親しんでいただけるようなテーマを設定して開催してきました。

年 度	企 画 展 名
平成13年度	「職員の写真展」 (平成14年2月23日～3月17日)
平成17年度	「日本のトゲウオ展」 (平成17年9月21日～12月18日)
平成18年度	イトヨの里開館五周年記念特別企画展 「世界のトゲウオ展」・「ふくいのおいしい水展」 同時開催 (平成18年7月14日～8月31日)
平成19年度	イトヨの里 夏休み企画展「本願清水の仲間たち～本当は敵？味方？～」 (平成19年7月21日～9月2日)
平成20年度	イトヨの里 夏の企画展「懐かしの本願清水～思い出のおすそわけ～」 (平成20年8月1日～9月15日)
平成21年度	イトヨの里 21 夏の企画展 感性のコラボレーション 「フォトギャラリー ～ファインダーから見る湧水のみなもと・平家平～」 (平成21年7月24日～8月30日) 「水・森・空・川・山 ～越前大野感性はがき展作品集～」 (平成21年7月24日～9月23日) イトヨの里「もうひとつの企画展」(平成21年7月24日～9月23日)
平成22年度	イトヨの里 22 夏の企画展 「湧水に生きるイトヨの仲間たち ～ハリヨ・トミヨ・遡川型イトヨの生体展示～」 (平成22年8月1日～9月4日) フォトギャラリー「湧水のみえる町 ～築城430年の歴史とともに、人と自然が共存する大野～」 藩主隠居所（結ステーション内） (平成22年10月1日～31日)

シンポジウムなど

森 誠一館長や自然保護活動を行っている専門家などを招いて、シンポジウムなどを開催しています。広く市民に開放し、イトヨや水環境への理解を深めていただいています。

また、さまざまな取り組みを行っている、たくさんの皆様の日頃の成果の発表の場ともなっています。

年 度	企 画 展 名
平成13年度	第3回 イトヨシンポジウム（平成14年3月17日） 会 場：有終会館106号室 テー マ：「まちづくり発信：イトヨの里から ～市民によるイトヨを通じた水環境の保全～」 基調講演：「鮎を守るための研究を市民とともに」 豊田市矢作川研究所 山本 俊哉氏 パネルディスカッション コーディネーター：森 誠一イトヨの里館長 パネラー：大野イトヨの会 杉本 敏憲会長・有終南小学校 橋本 幹雄校長 はりんこネットワーク代表 柳瀬 崇氏・矢作川研究所 山本 俊哉氏
平成14年度	第4回 イトヨシンポジウム（平成15年3月17日） 会 場：本願清水イトヨの里レクチャールーム テー マ：「イトヨの里に学ぶ環境保全とまちづくり」 基調講演：「多自然型川づくりとは何か」 独立行政法人・土木研究所自然共生センター長 萱場 祐一氏 発 表：地元婦人会によるイトヨ音頭 福井県土木部河川課足羽川ダム対策室 脇本 幹雄氏 有終南小学校 橋本 幹雄校長・イトヨの里 上松 博道副館長
平成15年度	第5回 イトヨシンポジウム（平成16年2月28日） 会 場：多田記念大野有終会館 テー マ：「自然と人との共生～地域資源を活用し、 地域を元気にする学校と地域住民の役割～」 第1部 基調講演 総合地球環境学研究所教授 秋道 智彌氏 「地域の宝物を探そう ビオストーリーの視点」 第2部 有終南小学校3年生82名 寸劇「イトヨが泳ぐ義景清水に」 開成中学校理科部 研究発表 大野の水を考える会と開成中学校1年生「お清水めぐり」 中野清水を守る会 安川 昭夫氏 「中野清水湧水復活までの活動報告」 大野明倫館 宮原 健太郎氏 「お馬屋池を再生しよう」「義景公園リフレッシュ大作戦」報告

平成16年度	第2回 トゲウオ全国サミット in Ono ～トゲウオから日本の水環境を考える～ (平成16年9月24・25日) 秋篠宮殿下ご臨席 会 場：大野市文化会館 基調講演：「トゲウオと生き物文化～水と魚と地域をつなぐ～」 総合地球環境学研究所教授 秋道 智彌氏 特別講演：「天然記念物の保存と活用から大野の環境の世紀について考える」 文化庁文化財部記念物課 主任文化財調査官 花井 正光氏 発 表：有終南小学校3年生寸劇 開成中学校理科部 会津イトヨ研究会 ハリザッコを守る会 神宮宇 寛氏 パネルディスカッション コーディネーター：森 誠一イトヨの里館長 パネラー：池田町ハリヨを守る会 長谷川 文子氏 月光川の魚出版会 鈴木 康之氏 五泉トゲソを守る会 樋口 正仁氏 熊谷市ムサシトミヨを守る会 田倉 米造氏 ハリザッコを守る会 神宮宇 寛氏
平成17年度	平成17年度イトヨフォーラム(平成18年2月26日) 会 場：本願清水イトヨの里レクチャールーム テ ー マ：「奥越の自然を考える～ふるさと大野の自然を知る～」 ふれあいコンサート「邦楽のしらべ」青葉の笛保存顕彰会 発 表：東海自然史研究会 小川 裕久氏 福井県立大学院生 山本 明彦氏 イトヨの里 長谷川 幸治副館長 教員OB 伊藤 一康氏 九頭竜楽しみ隊代表 新井 俊成氏
平成18年度	イトヨの里開館5周年記念 森 誠一氏 講演会 (平成19年3月9日) 「ふたつの保全：生物多様性と生き物の多様性」 会 場：学びの里「めいりん」講堂 講 師：森 誠一イトヨの里館長・岐阜経済大学教授
平成19年度	湧水保全フォーラム全国大会 in 越前おおの『残そう未来の子どもたちへ』 秋篠宮殿下ご臨席 (平成19年10月29・30日) 主 催：大野市・大野市名水を活かした水先案内実行委員会 会 場：学びの里「めいりん」 基調講演：「水辺と子どもの心」 (財)リバーフロント整備センター理事長 竹村 公太郎氏 発 表：足羽川堰堤土地改良区連合 吉川 強氏 福井県立福井農林高等学校 環境土木部 月光川の魚出版会 鈴木 康之氏 NPO法人五泉トゲソの会 樋口 正仁氏 有終西小学校4年生・岐阜県立大垣東高等学校 理数科 水みち研究会代表 神谷 博氏 パネルディスカッション コーディネーター 森 誠一イトヨの里館長 パネラー：国交省河川局河川環境保全調整官 小俣 篤氏 小川 敏 大垣市長・松永 清彦 海津市長・本市 岡田 高大市長

平成20年度	押切監督と森館長の対談&映画「はりんこ愛あるゆえに アディオス グッバイ さよなら」の上映会（平成21年3月14日） 会 場：学びの里「めいりん」講堂 対 談：押切 隆世脚本監督・森 誠一イトヨの里館長
平成21年度	J C共催森 誠一館長講演会「イトヨを通して環境を考える」（平成22年2月18日） 会 場：本願清水イトヨの里レクチャールーム テ ー マ：「越前大野の生物多様性を水文化で守る ～地域の宝物「イトヨ」を活かした環境と人づくり～」 講 師：森 誠一イトヨの里館長・岐阜経済大学教授
平成22年度	イトヨの里開館10周年記念プレイベントー公開学習会ー（平成23年3月5日） 会 場：本願清水イトヨの里レクチャールーム テ ー マ：「淡水魚・湧水保全～研究活動報告と今後の課題～」 会 場：本願清水イトヨの里レクチャールーム 基調講演：「日本のイトヨ類の多様性を探る」 福井県立大学海洋生物資源学部講師 小北 智之氏 発 表：中野清水を守る会代表 安川 昭夫氏 NPO法人田んぼの学校越前大野理事長 真名川水辺の楽校 Bioフレンズ代表 高津 琴博氏 大野の水環境ネットワーク事務局 寺脇 敬永氏 福井県淡水魚研究会代表 岡 友章氏 イトヨの里 長谷川 幸治副館長 定政 美喜子研究員 コーディネーター：森 誠一イトヨの里館長
平成23年度	本願清水イトヨの里 開館10周年記念 湧くわく水サミット in 越前おおの（平成23年10月23日） テ ー マ：「湧水文化の再生～ふるさとを知り、ふるさとを創る～」 開 場：学びの里「めいりん」 基調講演：「希少魚イトヨを湧水文化で守る ～天然記念物と人との関わりについて～」 文化庁文化財部記念物課 文化財調査官 江戸 謙顕氏 特別講演：「水管理制度と地下水～湧水をどう守るか～」 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 河川環境保全調整官 高村 裕平氏 発 表：本願清水イトヨの里（開成保育園・有終南小学校） 本市建設部建設課（糸魚町婦人会イトヨ音頭） パネルディスカッション コーディネーター 森 誠一イトヨの里館長 パネラー：国土交通省河川環境課 河川環境保全調整官 高村 裕平氏 文化庁記念物課 文化財調査官 江戸 謙顕氏 松永 清彦 海津市長・日置 敏明 郡上市長・本市 岡田 高大市長

地域とともに

大野市のイトヨは、地域の貴重な財産です。イトヨの保護のために設立されたイトヨの里では、地域の方々に活用されることによって、一層の保護の意識が深まることを願っています。

さまざまな形でイトヨの里を活用していただけますよう、これからも努めてまいります。

糸魚町

イトヨの里のある糸魚町の皆さまは、イトヨの里の設立以前から長い間、本願清水の保全活動に取り組んできていました。古い文献によると、大正11年には本願清水周辺の地元住民18人が「本願清水同志会」を結成、以来、親子三代に渡り、本願清水の清掃活動などを続けてきました。このように町民の皆様は、ずっと本願清水とイトヨたちを地域の宝物として大切にしてきました。

昭和41年には、それまでの「春日町」から「糸魚町」に町名が変更になりました。

また、現在も、年に2回イトヨの里の草刈を行っています。夏には糸魚町納涼夏祭りが開催され、糸魚町内の方々の憩いの場としても活用していただいています。



いとよ音灯会実行委員会

平成21年度から、大野市の若者たちグループが結集、地元糸魚町も参加し実行委員会を立ち上げ、イトヨと音楽とキャンドルの灯りを楽しむイベント「いとよ音灯会」が開催されています。

文化財である「本願清水イトヨ生息地」での大きなイベントは、全国的に見ても画期的なことです。いつもとは違った、夜のイトヨの里の雰囲気を楽しみながら、イトヨに親しみを感じていただいています。

第1回いとよ音灯会は平成21年9月20日に開催されました。「大切なもの」をテーマに集められたメッセージキャンドルの灯りに包まれた幻想的な雰囲気の中で、イトヨと音楽を楽しむ大勢の参加者でにぎわいました。第2回は平成22年9月4日に開催されました。メッセージキャンドルのテーマは「将来のゆめ」。フードベースや物品販売など規模を拡大し、さらに大勢の参加者でにぎわいました。第3回は、平成23年9月24日「感謝」をテーマに開催されました。



Ⅲ イトヨ保護活動

雑魚駆除

本願清水は、この10年間で新しい生態系が形成されました。現在、イトヨ以外にもさまざまな生き物が生息しています。豊かな生態系のためには良いことなのですが、時として、大きな魚類はイトヨにとっては脅威ともなります。イトヨの里では、大野市漁業協同組合の皆さんのご協力をいただき、イトヨの繁殖最盛期が終わった頃、雑魚駆除を行っています。



防鳥対策

イトヨにとっては、空から飛来してくる鳥類もまた、大きな脅威のひとつです。

毎年、冬の訪れる前に防鳥対策として、大野イトヨの会会員、市文化課職員、イトヨの里職員らで池に防鳥ネットやテグスを張り、イトヨを保護しています。

平成20年度には、国の国宝重要文化財等保存整備費補助金、県の国宝主要文化財等保存整備費補助金を受けて行われた生息池の防鳥対策工事も完成し、効果をあげています。



ボランティア活動

イトヨの里では、たくさんの皆さんが日ごろからボランティア活動を行っています。

遊びに来た子どもたちの自発的なボランティアなどは、日常的に見られる光景です。このように気軽にボランティア活動を行えることは、イトヨの保護活動を身近に感じてもらえる大切な体験であると考えています。ボランティア活動という小さな関わりが、やがてイトヨへの「思いやり」の心を育てているようです。

本願清水に生息している外来種である「アメリカザリガニ」は、イトヨの巣を壊したり、捕食したりと、迷惑な存在となっています。

イトヨの里では、自前の釣りざお持参で、たくさん子どもたちがザリガニつりを行い、イトヨの保護に協力してくれています。



イトヨの里の近くにある開成中学校では、「善意銀行」という名称で、社会奉仕を行っています。生徒のみなさんは、イトヨの里の草取りやプランターの世話など、さまざまな活動を行ってきました。



大野市内の帰山栄二さんからは、きれいな花を植えたプランターをいただきました。

手作りのプランターカバーには、イトヨの絵柄の焼印や絵馬などが施されています。イトヨの里を訪れるお客様に、かわいらしいプランターは好評です。

(平成21年5月12日)



他団体との交流

イトヨの保護活動を通じて、他団体との交流も盛んに行ってきました。イトヨを守ることは、大野市の水環境を守ることに繋がっていきます。他団体との相互理解と協力の下で、さまざまな取り組みを進めていきます。

大野市内

■大野イトヨの会

平成8年の設立以来、大野市のイトヨを守る活動を続けています。

イトヨの里が完成してからは、イトヨの里と共催でシンポジウムを開催しています。また、様々な事業にも協力していただいているサポート的な存在です。



■中野清水を守る会

中野清水周辺の皆さんが中心となって、中野清水とイトヨの保護活動を行っています。

学習会やシンポジウムなどでもご協力いただいています。



■大野の水環境ネットワーク

大野市の地下水保全活動に取り組んでいる団体です。イトヨの里では、毎年6月に行われる「全国一斉水環境調査」に参加させていただき、市内5河川の水質調査を行っています。また、イトヨの里館内の展示にもご協力いただいています。



■奥越前まんまるサイト

自然環境教育に取り組む奥越前まんまるサイトと共催で「赤根川で遊ぼう～ガサガサ隊」を実施しました。川遊びを通して自然とふれあい、自然を大切にする心が芽生えたのではないのでしょうか。

(平成22年8月17日)



市外・県外

トゲウオがつなぐ北陸の地域連携交流会

イバラトミヨの生息地である新潟県五泉市NPO法人五泉トゲソの会、NPO法人加治川ネット21、中条イバラトミヨ・水芭蕉の会、阿賀川・川の達人の会、五泉市立川東小学校の児童など30名の皆さんと、大野イトヨの会やイトヨの里の職員、大野市内の小学生たちによる交流会が開かれました。互いに親睦を深めながら、これからのトゲウオの保全について語り合いました。

(平成16年10月30・31日)



治左川とトミヨを守る会

福井県内で唯一のトミヨの生息地である越前市上真柄町味真野にある治左川で、トミヨを守る活動が続ける会です。

平成22年度 夏の企画展では、トミヨの生体をお借りしました。



治左川とトミヨを守る会代表 石本義勝氏 写真提供

その他の交流団体です。

池田町ハリヨを守る会 (ハリヨ)	岐阜県池田町
石川県立自然史資料館 (トゲウオ標本資料など)	石川県金沢市
いしかわ動物園 (トゲウオ標本資料・遡河型イトヨ)	石川県能美市
熊谷市ムサシトミヨをまもる会 (ムサシトミヨ)	埼玉県熊谷市
月光川の魚出版会 (イバラトミヨ)	山形県遊佐町
沢スギ自然館 (杉沢の沢スギ)	富山県下新川郡
トゲチョ会津ネットワーク (イトヨ)	福島県会津若松市
西之川ハリヨ保存会 (ハリヨ)	岐阜県大垣市
日本を代表するムサシトミヨの研究会	埼玉県本庄市
ハリザッコを守る会 (イバラトミヨ)	秋田県大潟村
はりんこ塾 (トミヨ)	石川県白山市
はりんこネットワーク	岐阜県大垣市
福井市自然史博物館 (イトヨ資料など)	福井県福井市
瑞穂ハンザケ自然館 (オオサンショウウオ)	島根県邑智郡

(50音順)

Ⅳ 未来へ

より楽しく、より学ぶ

本願清水イトヨの里では、これからも、利用される皆さまとともに、さまざまな活動を通して、イトヨを地域の貴重な財産として保護活用し、国の天然記念物に指定されている「本願清水イトヨ生息地」を市民及び市外の方たちにも親しみあるものとして参りたいと考えています。

大野市内だけではなく、県内、さらに県外からもたくさんの学校が遠足に訪れています。観察窓からの池の様子をみたり、展示パソコンでクイズに挑戦したりと、楽しみながら学んでいただいています。



年に数回行われているイトヨ観察会では、実際に生息池、観察池でのイトヨの営巣の様子や稚魚の有無の確認をしています。大野市のイトヨは、春先だけではなく、ほぼ年間を通して繁殖を行っています。これは大野市のイトヨの大きな特徴です。参加者たちは、イトヨの営巣や求愛の様子、大きさの異なる稚魚などを観察し、イトヨの成長を見守っています。



また、イトヨ観察会では、毎回、参加者と一緒に楽しみながらイトヨに親しめるよう、紙芝居の上演やイトヨをモチーフにしたリース、ペットボトルの中でイトヨの模型が浮き沈みする浮沈子づくりなどのお楽しみ企画も同時に設けています。



平成20年8月1日に初めての試みである「ナイトミュージアム」を実施しました。

夏の企画展の初日でもあるこの日は、いつもとは違う夜のイトヨの里の雰囲気の中で、観察窓を照らすライトに誘われて集まるイトヨの姿を楽しんでいただきました。



森 誠一館長がモデルとなった映画「はりんこ愛あるゆえに アディオス グッバイ さよなら」の上映会を学びの里「めいりん」で開催しました。

押切隆世監督は、ハリヨの生態や研究者と少年のふれあいを美しい映像でつづり、会場はさわやかな感動に包まれました。

(平成21年3月14日)



ビデオで楽しみながら環境問題について考えてもらおうと、冬期間環境ビデオ上映会を開催しています。

ドキュメンタリー形式でまとめられた作品や子どもたちが楽しめるアニメの作品などを上映しました。

第1回 平成21年2月7・14・21・28日
3月7日 (全5回)

第2回 平成23年2月5・12・19・26日
(全4回)

環境ビデオ上映会
一本願清水イトヨの里
☆参加費 無料☆

かんきょうもん たい
いっしょに環境問題を考えてみませんか！

第1回 2月 5日 (土) 午後3時～4時
□ 地球の未来 地球の未来
□ 地球の未来 地球の未来

第2回 2月 12日 (土) 午後3時～4時
□ 地球の未来 地球の未来
□ 地球の未来 地球の未来

第3回 2月 19日 (土) 午後3時～4時
□ 地球の未来 地球の未来
□ 地球の未来 地球の未来

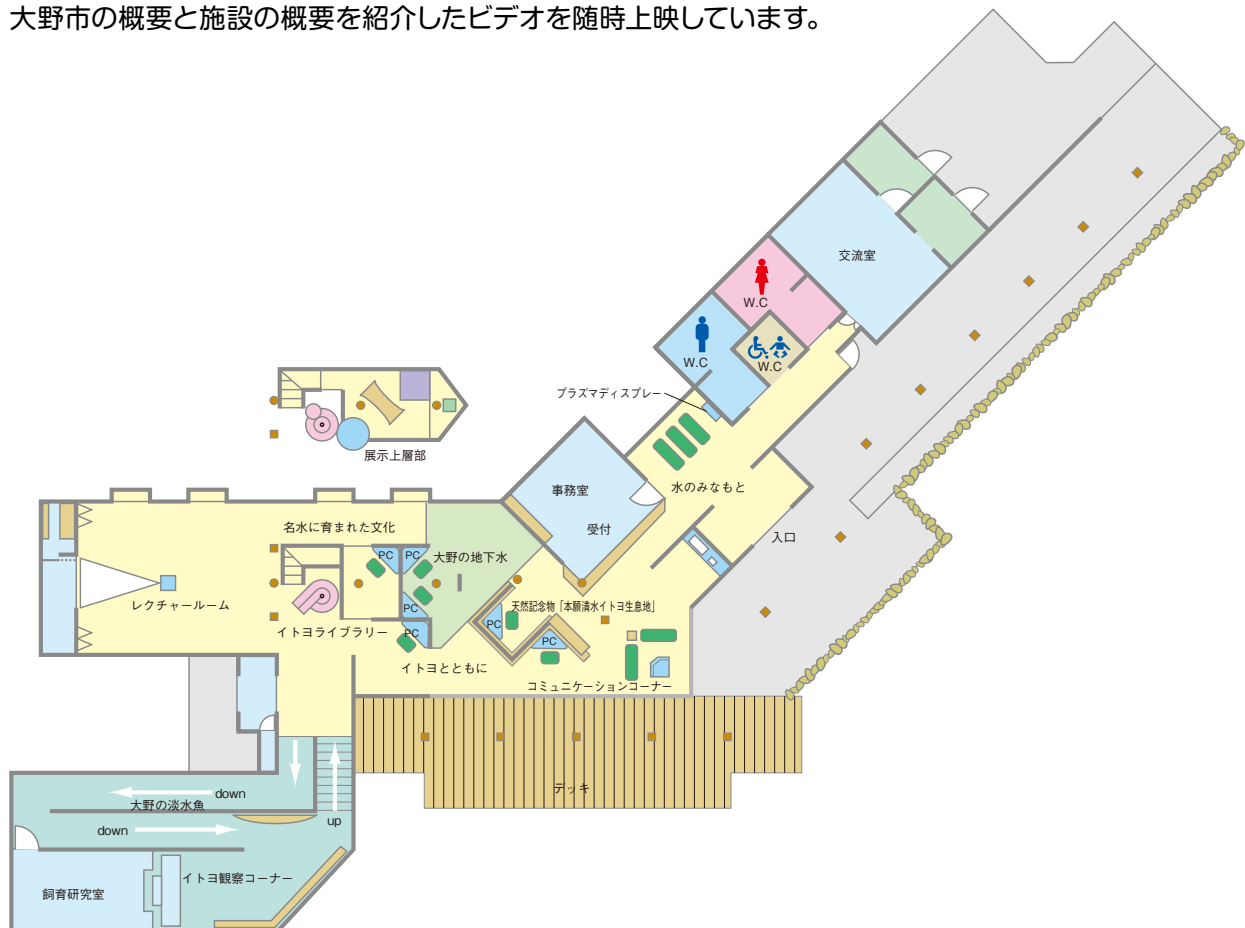
第4回 2月 26日 (土) 午後3時～4時
□ 地球の未来 地球の未来
□ 地球の未来 地球の未来

※ 問合せは イトヨの里まで TEL 65-5104
1回のみ参加もOK、申込は1回以上。

V 資料編

館内のご案内

大野市の概要と施設の概要を紹介したビデオを随時上映しています。



- 50インチの大型プラズマディスプレイ装備
- 下見窓から見る湧水枡（雨水や浄化槽からの再利用）



- コミュニケーションコーナー
- 「平成の名水百選」「ふくいのおいしい水」に選ばれた名水を味わいながらごゆっくりどうぞ



■さがして見よう

大野盆地の航空写真

スケール1/4,000 市内が一望でき、川の様子や、一軒一軒の家までわかる航空写真です。



■イトヨになってあそぼう！

学習展示コーナーの階上には、イトヨの冒険と称し、子供むけの各種遊具があります。



■レクチャールーム

オリジナル学習ビデオなどを希望に応じて上映します。学習会、講演会でのプレゼンテーション機器を設置しています。

■大野の地下水

大野の湧水地 今昔

大野の代表的な湧水地8ヶ所を紹介しています。

（本願清水、御清水、中野清水、お馬屋清水、こせき清水、新堀清水、義景清水）

■展示パソコン

6台のパソコンを自由に使用できます。イトヨや水文化、天然記念物に関するクイズに挑戦したり、地下水位や名水百選について調べることができます。



■展示パネルの下壁には、平成12年度の市内小学校3・4年生が描いて、市内の陶芸グループ「楽窯会（らくようかい）」が仕上げたイトヨの陶板タイルが約760枚貼ってあります。



■観察窓

観察窓からは、イトヨの棲む水中の世界がのぞけます。

イトヨの里 整備概要

■目 的

天然記念物「本願清水イトヨ生息地」を地域の貴重な財産として保護し、生涯学習や環境教育の場として活用することにより、その保護の一層の充実を図る。

■工事期間 平成10年度～平成12年度

■事業概要

1) 事業名 天然記念物「本願清水イトヨ生息地」整備活用事業（文化庁）

2) 総事業費 370,986,817円

内 訳	国	171,637,000円	（文化庁）
	県	85,648,000円	
	市	113,701,817円	

3) 工事費 総額 316,648,500円

内 訳	土木・造園工事	21,172,200円
	建設工事	130,183,200円
	設備工事	54,337,500円
	観察池工事	12,202,050円
	生息池工事	40,837,650円
	展示工事	57,915,900円
その他		54,338,317円

敷地面積 3,016.48㎡

学習施設

構造 木造平屋建て

室内床面積	553.2㎡
ポーチ面積	114.6㎡
研究・研究棟	139.3㎡
学習・展示棟	267.3㎡
管理棟	146.6㎡
生息池	670㎡
観察池	220㎡
園 路	630㎡ （広葉樹植栽）
駐車場 駐車スペース	650㎡
バス2台、乗用車17台（内車椅子対応1台）	

イトヨと自然環境にやさしい施設

「イトヨの里」整備にあたっては、イトヨの保護や地下水の涵養にまで、まわりの環境と調和するよう考えました。

●生息池と観測池

ももとの本願清水が「生息池」、それにつながる新しい池が「観測池」です。2つの池は防水シートが施されています。イトヨは広くなった池を自由に泳ぐことができ、イトヨの生息空間が広がりました。

●自然の湧水

本願清水の地下水位が2メートルの高さまで上がった時には、湧水パイプやボードウォークの下から、自然のままの湧水が池に入ってくるようになっています。

●防水構造

近年、地下水位が下がり自然の湧水が少なくなりました。そこでポンプで汲み上げた地下水を有効に使うため防水シートで受け、常時、池に水が満たされるようになっています。

●池の面積

イトヨは水温が高くなると生きていけません。周辺に水枯れがでないよう揚水量を制限し、その水量で、一定の水温を保つことのできるよう池の面積を決めています。

●地下水の再利用

池に給水している地下水をそのまま排水せずに、下流で汲み上げ、トイレや散水などに再利用しています。また、雨は浸透枳などで、できるだけ地下にしみ込ませています。

●池の底

池の中は、防水シートの上に厚く砂を敷いています。この砂はイトヨが巣を作りやすく、また他の水生生物が生息しやすいように、特別に選んだ砂です。

●池の深さ

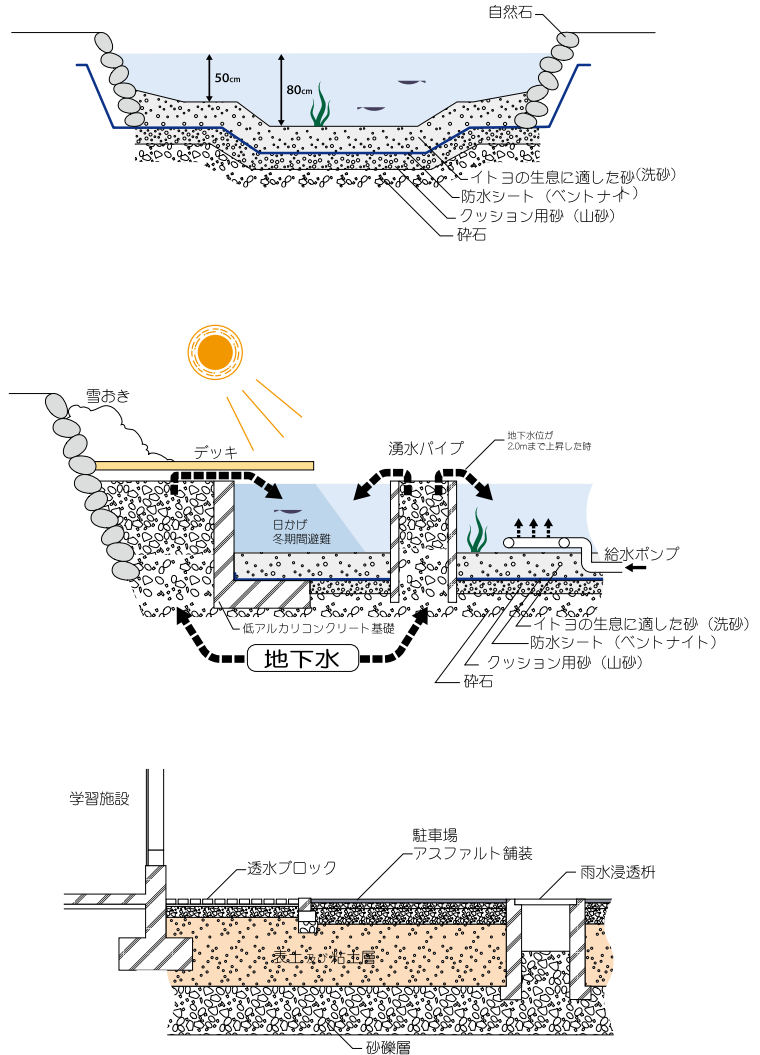
イトヨに適した深さは、約50cmです。本願清水の中央部分には深さ80cmの深いところをつくり、生息環境に変化をもたらすとともに、水鳥などの外敵からイトヨを守るようにしてあります。

●護岸

池の岸は、自然石や土などの自然の素材を使い、水中の生き物に適した環境としました。やむを得ずコンクリートを使った部分は、悪影響のあるアルカリ成分の少ないコンクリートを用いています。

●日よけ、雪囲い

「イトヨの里」では季節ごとに日よけや雪囲いを設けなくてもいいように、それに代るものとして、デッキやボードウォークを設置しました。



本願清水で水遊び



昭和30年頃／森川氏 提供



昭和40年頃／岸田氏 提供

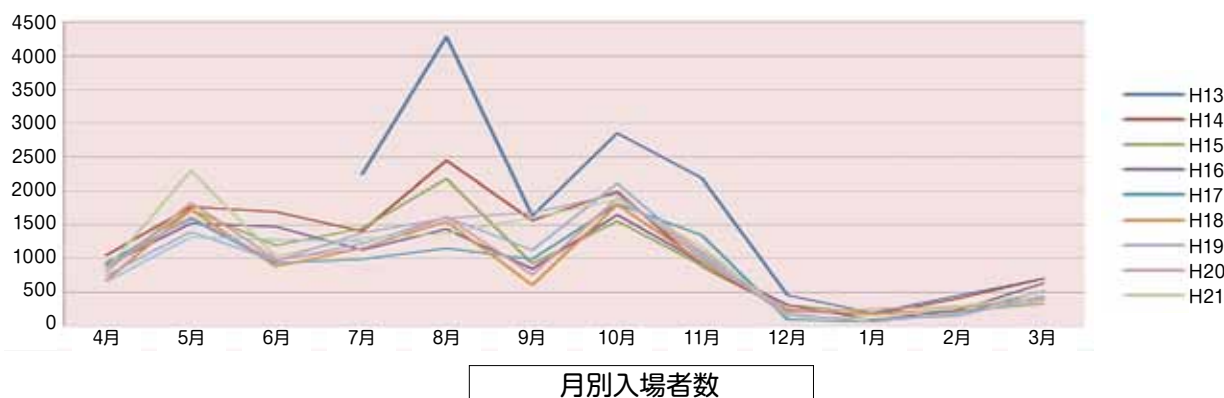
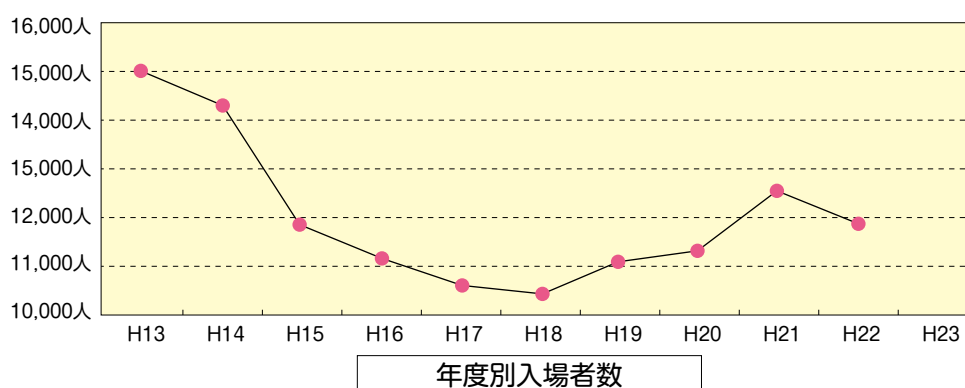
入館者の状況

本願清水イトヨの里が開館した平成13年度には、9ヶ月間で約15,000人の入館者がありました。最近は、1万数千人での推移となっております。

年間の傾向といたしましては、春と秋には、遠足や総合的な学習などによる小人の入場者が多く、行楽シーズンには県外からの観光客が多く訪れています。冬期間は少なく、豪雪の年度はかなり減少しました。

企画展、いとよ音灯会やナイトミュージアムなどのイベント開催時には、入場者が増加傾向にあります。トゲウオや水環境の保全団体、行政視察も多く平成22年度にはCOP10公式エクスカーション（視察など）で、海外からの研究者も訪れています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H13				2,239	4,280	1,629	2,852	2,191	461	194	450	706	15,002
H14	1,048	1,769	1,691	1,406	2,449	1,564	1,994	888	233	171	409	702	14,324
H15	896	1,721	1,196	1,443	2,177	920	1,556	901	318	195	220	334	11,877
H16	898	1,523	1,473	1,122	1,434	844	1,647	938	311	95	234	634	11,153
H17	941	1,587	934	991	1,151	990	1,811	1,344	92	72	179	518	10,610
H18	682	1,724	879	1,150	1,545	608	1,800	947	252	169	260	418	10,434
H19	751	1,396	961	1,215	1,616	1,124	2,111	1,053	148	109	147	446	11,077
H20	812	1,825	989	1,146	1,618	765	1,895	1,098	216	258	286	409	11,317
H21	848	2,298	1,031	1,306	1,372	1,609	1,879	1,168	157	114	282	504	12,568
H22	883	1,614	962	1,379	1,596	1,682	1,951	1,000	190	63	186	380	11,886
H23	664	1,317	1,274	1,256	1,207	1,732							7,450
合計	8,423	16,774	11,390	14,653	19,238	13,467	19,496	11,528	2,378	1,440	2,653	5,051	127,698



行政・環境団体など視察一覧

秋篠宮文仁親王殿下
文化庁
総合地球環境学研究所
福井県選挙管理委員会
JR西日本
福井県立大学水産学部・大学院
愛知県春日町
福井県
福井県環境政策課・自然環境課・文化課・他
岐阜県大垣市議会
石川県 金沢市理科研究会
福井県越前市
福島県 会津イトヨ研究会
秋田県 ハリザッコを守る会
岐阜県 池田町ハリヨを守る会
山形県 月光川の魚出版会
新潟県 NPO法人五泉トゲソの会
埼玉県 熊谷市ムサシミヨを守る会
岐阜県大垣市 西之川ハリヨ保存会
新潟県 NPO法人加治川ネット21
埼玉県環境科学国際センター
越前市 治左川とトミヨを守る会
石川県白山市 はりんこ塾
新潟県 中条イバトミヨ・ミズバショウの会
福島県 阿賀川・川の達人の会
福井県博物館協議会
敦賀市
福井市自然史博物館
滋賀県琵琶湖博物館
名古屋高等裁判所
富山県 氷見市教育委員会
富山県
石川県金沢市
愛知県豊田市
茨城県古河市
徳島県教育委員会
三重県
石川県立自然史資料館
九頭竜川資料館
北信越市議議長会
石川県立いしかわ動物園
北信越収入役会
北海道議会
三重県いなべ市
国土交通省
愛知県岩倉市
福井県教育研究所
千葉県我孫子市
石川県 加賀市学校教育会
富山県 糸魚川市議会
新潟県 魚津市議会
宮城県気仙沼市
宮崎県 宮崎市議会
新潟県 新発田市議会
岐阜県美濃市
岐阜県岐阜市
岐阜経済大学
長崎県 諫早市議会
愛知県西条市
滋賀県 守山市議会

常陸宮殿下・妃殿下
東京都水道研究会
熊本県環境生活部
福井県鯖江市
内閣府
富山県 黒部市商工会
静岡県 三島湧水会
応用生態工学学会
宮城県 名取市議会
香川県 香川市議会
福井大学
法政大学
立命館大学
香川大学
海津市子どもへら道場
全国自治体研修
愛知県多治見市
東京女子美術大学
鳥取大学大学院
鯖江市 下新庄の自然を守る会
福井デザイン専門学校
東北大学
名古屋芸術大学
ノーム自然環境教育研究所
岐阜県
東京都稲城市議会
北信越市長会・災害対策特別委員会
東京都板橋区
COP10公式エクスカーショ
兵庫県 芦屋市議会
三重大学
香川県三豊市
岐阜県 長良川流域環境ネットワーク協議会
熊谷市 日本を代表するムサシミヨの研究会
大阪市・城東区PTA協議会
大阪自然史博物館
愛知県 名古屋市議会
福島県 トゲチョ会津ネットワーク
福井県選挙管理委員会
福井県淡水魚研究会
国土交通省近畿整備局
立命館大学インドネシア留学生
立教大学
岐阜県 郡上市消防局
富山県 高岡市文化財に親しむ会
国家公務員自治体研修
福井高等専門学校
マンマー政府
岩手県大槌町
福井県校長会
北陸建築学会
金沢サイエンスクラブ
長野県議会
員弁川自然史の会
福井県観光連盟
福井県 NPO法人ドラゴンリバー交流会
独立行政法人土木研究所 自然共生研究センター
厚生労働省
茨城県日立市
長野県松本市

岐阜県大垣市
岐阜県海津市
新潟県五泉市
山形県遊佐町
岐阜県郡上市
岐阜県立大垣東高校
京都府 NPO法人亀岡人と自然ネットワーク
福井県 芦原市文化協議会
福井工業大学
愛知工業大学
岐阜県 池田町市議会
福井県衛生環境研究センター
大野市中学校教育研究会
福井県教育委員会課長会
滋賀県多賀町
岐阜県大垣市 はりんこネットワーク
三重県 いなべ市教育委員会
三重県 多度町自然育成の会
滋賀県 多賀町立博物館
東京農工大学
大阪教育大学
福井県林高校
福井県社会教育課長会議
大分県 臼杵市議会
本巣消防事務組合
ダム水源環境整備センター
国会計検査院
人権擁護委員会
京都府舞鶴市
外務省
福井県副市長会議
新潟県 加茂市議会
岐阜県水都まちづくり協議会
岐阜県 郡上市観光連盟
名古屋大学
福井県あわら市
兵庫県 姫路市緑化協会
大野市行政懇談会
日中友好協会
熊本県熊本市
富山県城端区
大野市社会教育委員
福井県警察本部
大野警察署
福井県ALT研修
嶺北消防組合
福井県防火団体連絡協議会
福井県美浜町
東京大学
福井県文化振興事業団
山梨県 都留文科大学
広島県 福山市議会
兵庫県 柏原ロータリークラブミナミトミヨ検討委員会
早稲田大学
石川県立大学
栃木県 宇都宮大学
愛知県知多市
東京都
環境省
他

利用案内



1. 場 所 〒912-0054
福井県大野市糸魚町8-44
TEL/FAX: 0779-65-5104
e-mail: itoyo@city.fukui-ono.lg.jp
ホームページ
<http://city.ono.fukui.jp/page/itoyo/index/html>

2. 敷地面積 3,016.48㎡

3. 駐 車 場 無料 650㎡
普通車17台 バス2台
内車椅子対応1台

4. 開館時間 午前9時～午後5時

5. 休 館 日 毎週月曜日
(ただし、国民の祝日にあたる場合は除く)
国民の祝日の翌日、年末年始
(12月27日～1月4日)

6. 入館料

	個人／年間	30名以上の団体
大 人	200 円／ 1,000 円	150 円
小人 (小・中学校児童・生徒)	50 円／ 500 円	30 円

ただし、教育課程に基づく教育活動〈遠足を含む〉として入館する児童生徒、及び園外保育などで利用する引率者は無料にてご入館いただけます。事前の申請が必要です。

●位置図

■自動車でお越しの場合

北陸自動車道

福井ICから国道158号線で約45分

東海北陸自動車道

白鳥ICから国道158号線で約75分

■公共機関でお越しの場合

JR福井駅→越美北線→JR越前大野駅で下車



本願清水イトヨの里 設置条例

平成17年11月4日
教委規則第16号

本願清水イトヨの里設置条例施行規則(平成13年教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規則は、本願清水イトヨの里設置条例(平成17年条例第108号。以下「条例」という。)第14条の規定に基づき、イトヨの里の管理及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第2条 館長は、上司の命を受け、イトヨの里の業務を総理し、所属職員を指揮監督する。
2 副館長は、上司の命を受け、館長の職務を代行する。
3 その他必要な職員は、上司の命を受け、それぞれの職務に従事する。

(開館時間)

第3条 イトヨの里の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、これを変更することができる。

(休館日)

第4条 イトヨの里の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。
(1) 毎週月曜日(月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「祝日法による休日」という。))に当たるときは、その翌日)
(2) 祝日法による休日の翌日(その日が日曜日、土曜日及び祝日法による休日(以下「休日等」という。))に当たるときは、その日以降で最も近い日のうち、休日等及び前号に掲げる日を除いた日)
(3) 12月27日から翌年の1月4日までの日(前号に掲げる日を除く。)
(4) 館内整理の期間

(入館者の遵守すべき事項)

第5条 入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。
(1) 入館の許可を受けた施設以外に立ち入らないこと。
(2) 許可を受けずにイトヨの里において寄附の募集、物品の販売、飲食物等の提供、広告物の掲示、写真の撮影、録音等を行わないこと。
(3) 許可を受けずに火気等を使用し、又は所定の場所以外において喫煙しないこと。
(4) 許可を受けず備え付けた備品等を移動しないこと。

(入館の禁止等)

第6条 教育委員会は、イトヨの里の秩序を乱し、若しくは他の入館者に迷惑を及ぼし、又はこれらのおそれのあるものの入館を禁止し、又はそのものの退館を命ずることができる。

(免除)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するものには、入館料を免除することができる。
(1) 教育委員会が主催する行事に参加するもの
(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する児童生徒及びその引率者
(3) 生活保護法(昭和25年法律第144号)による生活扶助及び教育扶助を受けている者
(4) 前3号に掲げるもののほか、特別の事情があると認められるもの

(優待入館)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するものには、優待入館者として入館料を免除することができる。
(1) イトヨの里の建設に功労があったもの
(2) 展示資料等を出品しているもの
(3) 前2号に掲げるもののほか、適当と認められるもの

(免除申請書)

第9条 第7条の規定により入館料の免除を受けようとするもののうち、同条第2号及び第4号に該当するものは、あらかじめ予定される入館者数、入館日時、申請理由並びに代表者又は引率者の住所及び氏名を記載した免除申請書を教育委員会に提出して、承認を受けなければならない。

(入館券)

第10条 入館券は、普通入館券、団体入館券及び特別入館券とする。
2 普通入館券は個人入館者に、団体入館券は団体入館者に、特別入館券は第7条の規定により入館料の免除を受けたもの及び第8条の規定により優待入館者に交付する。
3 入館券には、発行者名、入館種別、発行年月日、入館料その他必要な事項を記載するものとする。

(損傷の届出等)

第11条 イトヨの里及び資料を損傷し、又は滅失したものは、速やかに教育委員会に届け出て、その指示に従わなければならない。

(資料の貸出し)

第12条 資料の貸出しを受けようとするものは、資料貸出許可申請書(様式第1号)を教育委員会に提出しなければならない。
2 教育委員会が前項の申請を許可したときは、資料貸出許可書(様式第2号)を交付する。

(資料の撮影等の制限)

第13条 資料の撮影、模写又は模造をしようとするものは、事前に資料撮影許可申請書(様式第3号)を教育委員会に提出しなければならない。
2 教育委員会は、前項の申請書を受理したときは、その内容を審査し、適当と認めたときは、資料撮影許可書(様式第4号)を申請者に交付するものとする。

(資料の寄贈又は寄託)

第14条 イトヨの里に資料を寄贈又は寄託しようとするものは、資料寄贈・寄託申込書(様式第5号)を教育委員会に提出しなければならない。
2 教育委員会は、提出された資料寄贈・寄託申込書に基づき審査し、寄贈又は寄託の適否を判断するものとする。
3 教育委員会は、前項の資料の寄贈又は寄託を受けたときは、資料受領書(様式第6号)を交付する。

(寄託資料の取扱い)

第15条 寄託を受けた資料は、イトヨの里所蔵の資料と同様の取扱いをするものとする。ただし、館外貸出しについては、寄託者の承諾を得なければならない。
2 資料の寄託期間は、2年以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めたときは、この限りでない。
3 寄託を受けた資料について災害その他不可抗力により生じたき損又は亡失に対しては、教育委員会はその責めを負わないものとする。

(運営協議会)

第16条 条例第13条に規定する運営協議会の委員は、6人以内とし、文化財保護、学校教育、イトヨ保護、自然環境保護及び糸魚町の関係者の中から、教育委員会が委嘱する。
2 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
3 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
4 運営協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。
5 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
6 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
7 運営協議会の会議は、会長が招集する。
8 運営協議会の庶務は、イトヨの里において処理する。

(その他)

第17条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成17年11月7日から施行する。

附 則(平成19年教委規則第3号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年教委規則第7号)

この規則は、平成20年9月1日から施行する。

本願清水イトヨの里 管理運営規則

平成17年11月4日
条例第108号

本願清水イトヨの里設置条例(平成13年条例第6号)の全部を改正する。

(設置)

第1条 天然記念物本願清水イトヨ生息地を大野市の貴重な財産として保護及び活用することにより、大野の水文化を発展継承するため、本願清水イトヨの里(以下「イトヨの里」という。)を設置する。

(名称及び位置)

第2条 イトヨの里の名称及び位置は、次のとおりとする。

- (1) 名称 本願清水イトヨの里
- (2) 位置 大野市糸魚町8番44号

(事業)

第3条 イトヨの里は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 本願清水イトヨ生息地の保護及び調査研究
- (2) イトヨに関する資料の収集、整理、保管及び展示
- (3) 郷土の自然環境及び水文化に関する資料の収集、整理、保管及び展示
- (4) 講座及び学習会の開催
- (5) 前各号に掲げるもののほか、市民の文化の向上又は福祉の増進に必要な事業

(職員)

第4条 イトヨの里に館長その他必要な職員を置く。

(入館の許可)

第5条 イトヨの里の学習施設(以下「学習施設」という。)に入館しようとするものは、あらかじめ教育委員会の許可を受けなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の許可をする場合において、学習施設の管理上必要な条件を付することができる。

(入館の不許可)

第6条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、学習施設への入館を許可しない。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 学習施設及び資料を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、イトヨの里の管理上支障があると認められるとき、又は教育委員会が適当でないとき。

(入館の権利の譲渡等の禁止)

第7条 入館の許可を受けたもの(以下「入館者」という。)は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

(入館の許可の取消し等)

第8条 教育委員会は、入館者が次の各号のいずれかに該当するときは、当該入館に係る許可の条件を変更し、若しくは入館を停止し、又は当該許可を取り消すことができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。
- (2) 偽りその他不正の行為により入館の許可を受けたとき。
- (3) 入館の許可の条件又は関係職員の指示に従わないとき。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、イトヨの里の管理上特に必要があると認めるとき。
前項の措置によって入館者に損害が生じることがあっても、教育委員会は、その責めを負わない。

(入館料)

第9条 学習施設の入館料の額は、別表のとおりとする。

- 2 学習施設を利用しようとするものは、学習施設の入館の許可を受けたとき、前項の入館料を前納しなければならない。

(入館料の免除)

第10条 教育委員会は、公益上その他の理由により特に必要があると認めるときは、入館料を免除することができる。

(入館料の不還付)

第11条 既納の入館料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

- (1) イトヨの里の管理上特に必要があるため、教育委員会が入館の許可を取り消したとき。
- (2) 入館者の責めに帰することができない理由により、学習施設に入館することができないとき。

(損害賠償の義務)

第12条 入館者は、イトヨの里及び資料を損傷し、又は滅失したときは、それによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、市長は、特別の理由があると認めるときは、その額を減額し、又はこれを免除することができる。

(運営協議会)

第13条 イトヨの里の適正な運営を図るため、本願清水イトヨの里運営協議会(以下「運営協議会」という。)を置く。

(委任)

第14条 この条例に定めるもののほか、イトヨの里の管理及び運営について必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(過料)

第15条 市長は、詐欺その他の不正の行為により、この条例に定める入館料の徴収を免れた者に対し、徴収を免れた金額の5倍に相当する金額(当該5倍に相当する金額が50,000円を超えないときは、50,000円とする。)以下の過料に処することができる。

附 則

この条例は、平成17年11月7日から施行する。

別表(第9条関係)

区分	大人	小人	備 考
普通	200円	50円	小人は、小中学校児童生徒とする。団体は、30人以上とする。
年間	1,000円	500円	
団体	150円	30円	

管理運営

大野市教育委員会が設立し、文化課が所管しています。

イトヨの里では、嘱託職員3名、臨時職員3名で管理しています。

館長(嘱託職員)	1名	森 誠一	(岐阜経済大学教授・理学博士)
副館長(嘱託職員)	1名	長谷川 幸治	(平成13～16年度まで研究員)
研究員(嘱託職員)	1名	定政 美喜子	(学芸員)
事務員(臨時職員)	3名	帰山 一美 柿本 いずみ 森川 智夏子	

(平成23年10月1日現在)

歴代副館長

上松 博道	平成13年度～平成14年度
高井 修二郎	平成15年度～平成16年度

運営協議会委員

	H 13・14	H 15・16	H 17・18	H 19・20	H 21・22	H 23
会 長	高井 修二郎	伊藤 一康	伊藤 一康	伊藤 一康	高津 琴博	高津 琴博
副会長	南部 友子	南部 友子	室谷 勝乃	高津 琴博	中村 圭吾	中村 圭吾
委 員	小倉 長良	木下 真澄	木下 真澄	橋本 幹雄 杉原 眞一	伊藤 一康	伊藤 一康
	土橋 喜代志	土橋 喜代志	南部 友子	林 和男	林 和男	角平 学
	橋本 幹雄	山村 裕子	山本 軍治郎	室谷 勝乃	安川 昭夫	杉原 眞一
	山村 裕子	山本 弘行	山本 弘行 明石 則夫	安川 昭夫	山村 宗武	安川 昭夫

生活から生まれた素晴らしい伝統。

大野に根づいた文化。

古来より営まれた生活。

大野市の歴史は湧水とともに歩んでいます。

イトヨが、これからどのような道をたどるかは、私たちの手に託されています。

本願清水イトヨの里

10年のあゆみ

編集・発行／大野市教育委員会

主 管／大野市教育委員会 本願清水イトヨの里

〒912-0054 福井県大野市糸魚町8-44

TEL/FAX.0779-65-5104

HP <http://www.city.ono.fukui.jp/page/itoyo/index.html>

E-mail itoyo@city.fukui-ono.lg.jp

平成23年10月

大野市教育理念

明倫の心を重んじ 育てよう 大野人

人としての生きる道を明らかにし、進取の気象を育てた明倫の心は、
いつの時代においても変わらない大野の学びの原点です。
私たちは、この心を大切に、優しく、賢く、たくましい大野人になるため、
学び、育てることに努めていきます。

平成21年3月

大野市教育委員会